

ニセコ オートルート

専場修爾

1995. 3/19 ~ 20/21 NOMADガイド白石高山外ヶ名  
岩内スキー場 — 岩内岳 — 目国内岳 — 前目国内岳 — 新見峠

3/19(土)

晴後曇

リフト三本乗り継ぎ840M地点に着く。スキー場は、広大で、ス  
キヤの安さゆえに北海道らしい。真下に岩内の街、日本海が見え  
る。いよいよ、三日間のツアーの出発。スキーにシール、アイゼンを着  
ける。クラフトした急斜面をキックタンに高度をかせ、アイゼンが良  
きき滑落の不安は無い。一回休憩して頂上に着く。強風で  
マセ毛根で緊張する。シールをはずし始め加ガリの毛根を二、三十メ  
ートル横滑りで降る。斜度も緩くなり雪もやわらかいためか、カイトに  
続いて滑り、ランゲ目国内川の源流の平泉 920M地点に着き休  
憩する。目国内岳の登頂のためシール、スキーアイゼンを着ける。

どこからともなくスノーモビルのエンジンの音が聞こえてきた。十五お  
ぐらいの団体が走り去った。始め緩斜面が次第に急になり、天候も  
降り坂で頂上に着いた時は、強風とガスで視界は五メートル  
位だ。フットがバタバタ音をたてる。一段高くなつてシカブラの頂上に  
つぼ足で登る。展望を楽しむことはできない。シールをはずしホ  
ワトアウトの中を前かを見失うかわいようクラフトし斜面を踏る。  
前目国内岳は頂上には登らず右の山腹をトラバースする。この辺で  
ようやく視界が開け天候も良くなり新見峠の林道はるか右下の谷  
に新見温泉の屋根が見えた。広大な斜面で樹木も少なく新雪が  
五六センチメートル積もっていた。一、二月の新雪のようには滑らないが何  
回か休んだ時の林道に滑り降りる。ここでもスノーモビルのあとが  
着いている。あとは、林道をショートカットし温泉に着く。曇天風呂に  
入りビールで乾杯し一月目を終わる。

コースタイム

リフト終点 10:20 ~ 10:30 — 岩内岳 12:00 — 目国内岳 13:00  
— 前目国内岳下 14:30 — 新見峠 15:00 — 温泉 15:30

3/20 曇. 800M 上部カスで視界不良

新見温泉—白樺山—シクナゲ岳—チセヌプリ—ニトヌプリ  
—五色温泉

六時、シール、スキーアイゼンを着けて出発。白樺山の頂上もくっきり見える。ダケカンバの間を登行する。892Mの尾根にでると無さ木の斜面だ。天候が悪くなり、カスで視界が悪くなる。回りの景色は、全然見えない。前の人を見失わないようにたすきで登行する。頂上に着きシールをはきし、クラックした斜面を慎重に滑る。標高が低くなると少し視界が良くなる。再びシール、スキーアイゼンを着けシクナゲ岳めざして登行する。ここも視界不良で地図を見ても現在位置を正確につかめない。頂上に着き、シールをはきず。始め急斜面は、横すべりで下降し高度を下げる。滑り降りるとカスの中からチセヌプリスキー場のリフトが右下に見えた。シールに、スキーアイゼンを着けチセヌプリの頂上に向かって登行する。250Mの高度の急斜面をひたすら登る。この山も視界不良で風は強い。頂上でシールをはきし、滑る。視界不良でクラックしているので急斜面を慎重に滑る。高度がさかると多少視界が良くなる。道路に滑り降りる。シールを着け休憩していると、自衛隊の人に出会う。雪上訓練で雪洞を掘っていた。

いよいよ最後のニトヌプリの登行だ。始めは、視界が少しあるが登行するにつれて風は強くなり斜度も急になる。クラックしている急斜面の登行には、滑落しないようストックを確実に使って登る。よやく頂上に着く。雪質が良くなるので少しシールをつけてそのまま下降する。慎重に休みながら滑る。カドの白さ以外は地図を見ながら右に斜滑降り降り方向に苦労している。

800M地点の平地に着くと、イロカブツが姿を現し視界も良くなる。ここでも十五人がスノーモセルで走っていた。シールを着けおし登ると、今日の宿五色温泉が見えた。ここからで温泉に着いた。十一時、カドの登下降は久しぶりだ。

## コースタイム

出発 6:00 → 白樺山 → シュクナ岳 → チセヌプリ →  
ニトナプリ → 五色温泉

曇、200M以上視界不良

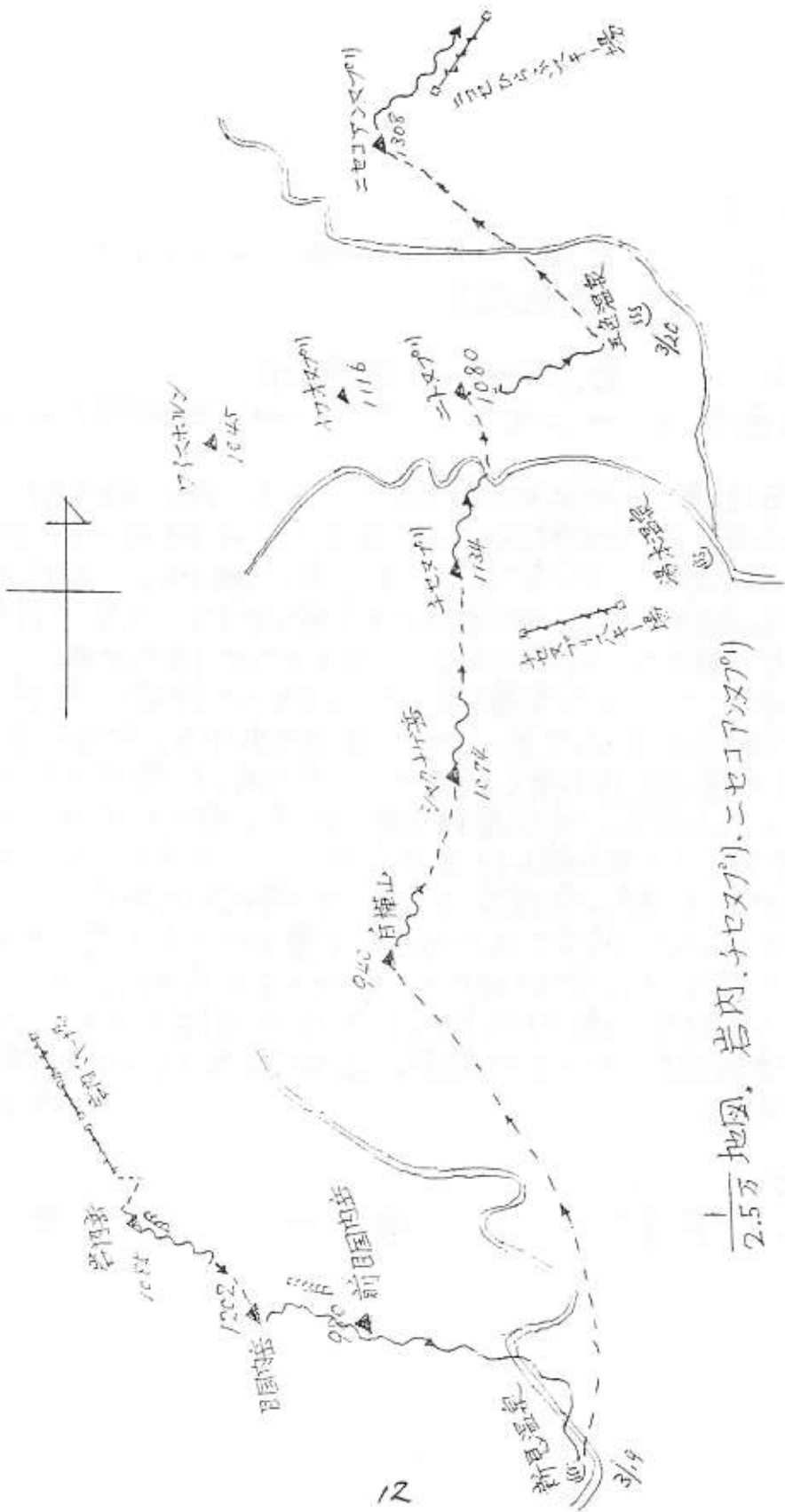
五色温泉 → ニセコアンナプリ → ニセコ国際ひらふスキー場

今日は、最後にニセコ国際ひらふスキー場に降る日だ。  
四五人足におめかしてきたくらいで元気だ。七時宿のすぐ前で  
シール・スキーアイゼンをつける。すぐ岩の緩斜面の尾根を登  
行する。治部ガケカンバの谷の中を上行する。次第に斜度も  
急になり無立木の斜面になる。今日もガスで視界が悪い。  
途中、スキーアイゼンを着ける。左谷スキーの斜登山が続く。  
やがて斜度が急になりキックタンで高度をあげる。雪質が良い  
斜度の緩い尾根に着く。ニセコのシッポの着いた標式があり頂上  
の近いことを知る。すぐ避難小屋に着いた。雪の入った中に  
休憩ビールを回し飲みして完走を祝った。かすかにスキー場の  
音楽が聞こえてきた。危険な巡には、竹の棒がさしてあった。  
頂上からスキー場までスノーキャビンで整地しており、思いきりスキ  
ー場に滑り込む。ガスの中からスキー場の海が見えた。二、三回  
集合して、スキー場のレストランに入り三日間のスキーター  
を無事終った。ビールで乾杯、山田温泉に入り札幌に  
お別れ。  
(馬場記)

## コースタイム

五色温泉7:00 → 頂上12:00 → スキー場着12:30

ル——ト——図



1/2.5万地図、岩内、子セヌプリ、ニセコ山ヌプリ